



環境月間キャンペーン 大容量エコバッグプレゼント

「快眠をエコと一緒に持ち帰ろう」

ロフター株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：磯貝俊介）は、2011年10月中旬、「快眠をエコと一緒に持ち帰ろう」キャンペーンを開催いたします。

■キャンペーン概要

ロフター株式会社では「Reduce〈物を大切に使う。ごみを減らそう〉」に向けた取り組みとして、お買い上げ商品を、再利用できるバッグで持ち帰っていただくキャンペーンを行います。

※経済産業省を含む8府庁が、3R（リデュース・リユース・リサイクル）に対する理解と協力を求めるために毎年10月を「リデュース・リユース・リサイクル推進月間」と定めています。



対象：ロフター快眠枕とピローケースをセット購入し、お持ち帰りになるお客様

（環境への配慮として、配送を希望される方は対象外とさせていただきます）

実施店：全国枕工房（一部店舗をのぞく）

期間：10月中旬～

準備数：2000枚

サイズ：62×14×40cm



伸ばした状態（枕持ち帰り時）



ちぢめた状態（買い物時）



肩からかけることができる大容量エコバッグです。枕を持ち帰るときだけではなく普段のお買い物でも使いやすいよう、出し入れ口をひもでしばれる仕様にしました。



日本の睡眠文化はエコだった

江戸の快眠とそばがら枕

古代から現代にいたるまで、日本人が最も長くつきあってきた枕の

素材、そばがら。奈良の正倉院にも蕎麦殻の枕は保存されており、当時は枕の最高級だったといわれています。蕎麦殻は通気性が非常によく、一晩頭をのせても熱がこもりにくいという特性を持っています。

いつの時代、どの地域においても、伝統素材というものは、しかるべき理由があって誕生しています。北ヨーロッパの乾燥した寒い気候や鳥と共生する生活スタイルから、保温性の高い羽毛の枕が生まれたように、日本では、食物としての蕎麦が受け入れられ大流行していくなか、粉に挽いた際に副産物としてでる果皮部分を、いわばリサイクル活用していたのです。それは生活全体がリサイクル社会で成り立っていた、江戸の社会に生まれた知恵と工夫だったのでしょう。先人たちは、身の周りにある生活材を上手に利用しながら、高温・多湿の日本の気候に最も適した素材だということ、自分の身体で体感しながら快眠を見つけだしていったのです。

今日、健康がデータや数値として計られ指標になる時代だからこそ、古来からの人々の知恵と工夫を今一度見直し、長く伝えられてきた素材のよさを考えてみてはいかがでしょうか。